

タイトル	だれもがかかわり合えるように ～タンザニアと日本のつながり～		
名前	亀山 治夫		
学校名	京都市立一橋小学校		
担当教科	—		
実践教科	総合的な学習の時間	時間数	27時間
対象学年	4年1組	対象人数	19人

カリキュラム案

(1) 実践の目的

「だれもがかかわり合えるように」したいと思う力を、子どもたちにつけてほしいと考える。その中には、自分とは違う背景をもつ外国の人の文化を知り、理解しようとする力も必要である。今回は、タンザニアという国を通してその力をつけてほしいと考えた。

興味をもって知ること、好きになることは理解しようとする第一歩だと思う。なので、まずは子どもたちがタンザニアに興味をもったり、好きになったりすることを大切に考えた。自分たちと似ているところと違うところを知り、その中でタンザニアと日本の「つながり」に気付けるようにした。自分とのつながりに気づき、身近に感じる事ができれば、遠い国ではなく、地球全体を一つとして考え、他の国の人とかかわり合いたいと思えるだろう。

今回の学習が、子どもたちが成長し途上国の現実を深く学んだとき、地球全体を一つとして考え、その中で困っている人がいれば助けたい、「自分たちができること」は何だろうと考えられるきっかけになればとも思う。

また、他の国について知ること、改めて日本について知ったり、自分たちの生活について考えたりできる機会にもしたい。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
第1次 ふれる（6時間）「タンザニアについて知ろう」		
1 限目 テーマ：タンザニアと出会う ねらい：タンザニアについて知り、興味をもつ。	①タンザニアの位置を知る。 ②タンザニアの動物やキリマンジャロ、小・中学生の写真を見せて、タンザニアのイメージをもつ。	①地球儀 ②タンザニアの動物やキリマンジャロ、小・中学生の写真

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
2、3 限目 テーマ：日本を知る ねらい：タンザニアの小、中学生に日本を紹介するために、日本について調べ、まとめる。	①本や新聞、インターネットなどを活用し、日本を紹介できる情報を集める。 ②集めた情報を壁新聞にまとめる。	①本 インターネット 新聞 ②模造紙
4 限目 テーマ：タンザニアを知る ねらい：タンザニアで集めた資料をもとに、現地で教師が驚いたり発見したりしたことを伝える。	①タンザニアの小・中学生に子どもたちが作った壁新聞を渡している写真や、現地の写真を見せる。子どもたちがタンザニアに興味をもったり、好きになったりするような情報に絞る。(タンザニアの子どもたち、動物、食べ物、あいさつの言葉、音楽)	①写真、動画、CD
5 限目 テーマ：タンザニアをさらに知る ねらい：タンザニアで集めた実物の資料をもとに、どのように使われているか考え、知り、タンザニアの文化を学ぶ。	①モノランゲージを行い、タンザニアで何に使われているものか考える。 ②他にもティンガティンガやマコンデ彫刻のアート作品も実際に見せて紹介する。	①ランプ、親指ピアノ、カンガ、栓抜、DEET100の虫除けスプレー ②ティンガティンガ マコンデ彫刻
6 限目 テーマ：カンガについてもっと知る ねらい：タンザニアで集めた実物のカンガをもとに、カンガセイイングの意味や、実際にカンガの様々な着方を体験する。	①前時で知った民族布カンガに書かれているカンガセイイングについて知り、タンザニアの人は、カンガを柄とカンガセイイングで選んで身につけていることを学ぶ。 実際に、カンガの様々な着方を体験する。	①カンガ
第2次 つかむ (4 時間) 「タンザニアと日本のつながりを知ろう」		
7 限目 テーマ：タンザニアから日本へのつながりについて知る ねらい：Basic Human Needs (人間として基本的なニーズ) について知る。途上国の現状を知る。タンザニアから日本へのつながりを感じる。	①「ふれる」の学習の確認をする。 ②無人島ゲームをする。 Basic Human Needs (人間として基本的なニーズ) について知る。 ③タンザニアには、Basic Human Needs (人間として基本的なニーズ) が保障されていない場所があることを知る。 ④日本が戦後、多くの国から支援してもらい発展したこと、東日本大震災の後、多くの国から支援してもらい、その国の中にタンザニアもあることを知る。	①Google earth ②メモ用紙 ③タンザニアで使われていた透明でない生活用水の写真 ④東海道新幹線の写真 東日本大震災をうけての各国の支援物資、メッセージ、タンザニア大使館からのメッセージの資料
8 限目 テーマ：日本からタンザニアへのつながりについて知る ねらい：タンザニアから日本へのつながりを感じる。JICAの活動、青年海外協力隊の活動について知る。	①日本からタンザニアへのつながりのある写真を使ってフォトランゲージを行い、どんな写真か考える。 日本からタンザニアへのつながりについて知る。JICAの活動、青年海外協力隊の活動について知る。	①5枚の写真 ・日本から送られた救急車 ・日本から送られた自転車 ・タンザニアの学校で働く青年海外協力隊の人 ・ローマ字とスワヒリ語の書かれたTシャツ ・日本からタンザニアの病院に寄付された機械
9、10 限目 テーマ：もっと身近にタンザニアとのつながりを感じる ねらい：滋賀県在住のタンザニア人のオマリさん、奥さんの中江さんと交流し、もっと身近にタンザニアと日本をつながりを感じる。 (スワヒリ語であいさつ、オマリさん自己紹介、オマリさんに質問、いっしょにタンザニアと日本をつながりの絵を描く、など。)	①実際にタンザニア人のオマリさん、奥さんの中江さんと交流し、もっと身近にタンザニアと日本をつながりを感じる。 (スワヒリ語であいさつ、オマリさん自己紹介、オマリさんに質問、いっしょにタンザニアと日本をつながりの絵を描く、など。)	①オマリさんの自己紹介のスライド、模造紙、画用紙、クレパス

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
第3次 むかう（7時間）「タンザニアと日本のつながりについて調べよう」		
11 限目 テーマ：タンザニアについて特に興味のあるものを見つける ねらい：自分が特に興味のあることを調べ、「タンザニアと日本のつながり」を探す計画を立てる。	①「つかむ」までの学習の中で、自分が特に興味のあるものについて「タンザニアと日本のつながり」を探す計画を立てる。（どのように情報を集めるか、どのように情報をまとめるか、どのように情報を伝えるか。）同じテーマを選んだ者同士でグループを作り、共に学習を進めていく。	①情報活用の実践力の支援カード
12、13 限目 テーマ：タンザニアについて特に興味のあるものを調べる ねらい：自分が特に興味のあることを調べ、「タンザニアと日本のつながり」を探す。	①前時で決めた方法で、自分の選んだテーマの情報を集める。ただそのテーマについて調べるのではなく、そのテーマの中で、「タンザニアと日本のつながり」を探すことも忘れない。	①本 インターネット
14、15 限目 テーマ：調べたことをまとめる ねらい：自分が選んだテーマについて集めた情報をまとめる。	①自分の選んだテーマについて集めた情報を、画用紙やパソコンのプレゼンテーションソフトを使ってまとめる。	①画用紙 パソコン
16、17 限目 テーマ：調べたことを伝え合う ねらい：自分が選んだテーマについてまとめた資料を基に、「タンザニアと日本のつながり」を紹介する。	①自分の選んだテーマについてまとめた情報を、他のグループの人に伝える。「タンザニアと日本のつながり」が様々なところにあることに気付く。	①画用紙 パソコン
第4次 生かす（10時間）「タンザニアと日本のつながりについて知らせよう」		
18 限目 テーマ：タンザニアについて学んだことを伝えよう ねらい：タンザニアについて学んだことを、自分たちのクラス以外に発信する計画を立てる。	①自分たちが学んだ「タンザニアと日本のつながり」が様々なところにあることを、自分たちのクラス以外に発信する計画を立てる。	①情報活用の実践力の支援カード
19、20、21、22 限目 テーマ：タンザニアと日本のつながりすごろくを作ろう ねらい：楽しく遊ぶことで、「タンザニアと日本のつながり」が様々なところにあることを学ぶことができるすごろくを作る。	①楽しく遊ぶことで、「タンザニアと日本のつながり」が様々なところにあることを学ぶことができる「すごろく」を作る。	①模造紙
23、24 限目 テーマ：タンザニアと日本のつながりすごろくを3年生にやらしてもらおう ねらい：初めてタンザニアに出会う3年生が楽しみながら学べるすごろくになっているか確かめる。	① 楽しく遊ぶことで、「タンザニアと日本のつながり」が様々なところにあることを学ぶことができる「すごろく」になっているか、初めてタンザニアに出会う3年生に遊んでもらい、感想を聞く。	①「タンザニアと日本のつながりすごろく」
25、26、27 限目 テーマ：＜振り返り＞自分たちができることを考えよう ねらい：単元全体の学習を振り返り、これからの生活の中で、自分たちができることを探し、実践する。	① 単元全体の学習を振り返り、これからの生活の中で、自分たちができることを話し合う。 ② 話し合ったことを実践する。	①ワークシート

実践授業の詳細

<第1次 ふれる (6時間)「タンザニアについて知ろう」>

はじめて子どもたちに、夏休み、私がタンザニアに行くことを話したら、「動物にたくさん会えそうで、いーなー！」とよいイメージをもっていることに気付いた。なので、1限目から、そのよいイメージを崩さず、タンザニアを好きになってもらうことを心がけた。

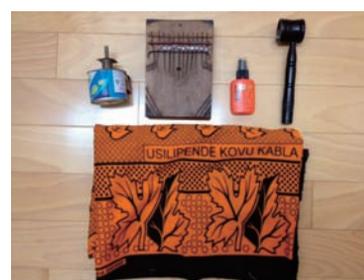
2、3限目では、「日本には四季があるけれど、アフリカにはないって本で読んだことがある。」「習字は日本らしいものだよ。」と言いながら、意欲的に日本について調べていた。改めて自分の国について調べてまとめることは、今後、子どもたちが海外の人に日本を紹介できるよい経験になったと思う。

4限目では、私が実際にタンザニアで驚いたり発見したりしたことを伝えた。子どもたちは、自分たちの作った壁新聞が実際にタンザニアの人に渡った写真を見て、タンザニアを身近に感じることができた。さらに、私が出会った踊りながら大縄を跳ぶ少女、サッカーをする少年たちや、たまたま出会った動物、食べたタンザニア料理(ウガリなど)を見たり、現地で買ったタンザニアの子どもの歌を聞いたりして、「明るい! 元気! おもしろい!」という感想をもっていた。



子どもたちの作った壁新聞

5限目では、5つのグループに分かれ、各グループにそれぞれ一つずつ、タンザニアで使われているものを渡し、それがどのように使われているか考えるモノランゲージを行った。日本では見慣れないものに子どもたちはとても興味をもち、「たぶんこうやって使うんだよ!」と活発に話し合っていた。実際の使い方を知ると、「そうなんだ!」「やっぱり!」と言って、日本と似たところと違うところに気付いた。他にもティンガティンガやマコンデ彫刻についても紹介すると、特にティンガティンガの鮮やかな色彩に興味をもっていた。



モノランゲージのもの

6限目では、実際にカンガを全員で様々な着方で着てみたことがとても盛り上がった。初めは照れていた子も、様々な柄やカンガセイイングの意味、多くの着方があることに興味をもち、喜んで身に付けた。女の子は色々な着方に挑戦し、上手に着こなす子が多かった。





教室の掲示

<第2次 つかむ（4時間）「タンザニアと日本のつながりを知ろう」>

7限目では、まず「ふれる」の学習内容を振り返った。その時、「タンザニアに行ってみよう」と言って Google earth を使って自分たちが今いる学校からタンザニアまで、映像で移動した。すると、1限目の地球儀より、楽しく、分かりやすく位置確認ができた。その後、5つのグループに分かれ、無人島ゲームをした。無人島ゲームとは、まず、無人島にずっと住むとして、ほしいものを書き出し（ブレインストーミング）、次に、その中から本当に生きるうえで必要なものを三つにしぼる、というものである。子どもたちは最終的に水、食べ物、家などを残した。そして、それが Basic Human Needs（人間として基本的なニーズ）であることを教えた。さらに、タンザニアには、Basic Human Needs（人間として基本的なニーズ）が保障されていない場所があることを、タンザニアで使われていた透明でない生活用水の写真を見せて説明した。水をくみに行くなどの家事をしないといけないことで、学校に行けない子どもたちがいることも伝えた。すると、タンザニアに対して、今まで「明るい！元気！おもしろい！」という感想だけをもっていた子どもたちはとても驚いていた。けれど、その事実を遠い国のことで自分には関係ないと思ってほしくないのが、日本が戦後、多くの国から支援してもらい発展したこと、東日本大震災の後、多くの国から支援してもらい、その国の中にタンザニアもあることを知らせた。子どもたちは特に、タンザニア大使館からの「私達の心は、あなたたちと共にあり、あなた達の痛みは、私達の痛みです。」という言葉に心打たれ、「タンザニアと日本は心でつながっている」という感想をもった。この授業では、私が欲張りすぎて、単元構成では第4次に予定していた「自分たちにできること」まで話を進めてしまったことが反省点である。



透明でない生活用水の写真

8限目では、タンザニアから日本だけでなく、日本からタンザニアへのつながりもあることを学んだ。5つのグループに分かれ、各グループにそれぞれ一枚ずつ、日本からタンザニアへのつながりに関わる写真を渡し、それがどんな写真か考えるフォトランゲージを行った。そこで、日本からタンザニアへのつながりについて知った。さらに、JICAの活動、青年海外協力隊の活動について教え、子どもたちは、「タンザニアや他の国と日本は助け合っている」という感想をもった。



フォトランゲージの写真



オマリさん、中江さんとの授業の様子

9、10 限目では、子どもたちに、もっと身近にタンザニアとのつながりを感じてもらうため、滋賀県在住のタンザニア人のオマリさん、奥さんの中江さんと交流し、タンザニアと日本のつながりを深めた。オマリさんたちが来てくれることを子どもたちに伝えると、「歌のプレゼントがしたい」という意見が出たので、出会いのときに「カリブ」というスワヒリ語の歓迎の歌を歌い、最後に「だれもがかかわり合えるように」というメッセージのこもった「ビリーブ」を歌った。ティンガティンガを描くアーティストであるオマリさんといっしょに、一つの大きな絵を完成させたことは、子どもたちにとって、本当に身近にタンザニアと日本のつながりを感じるものになったと思う。



<第3次 むかう (7時間) 「タンザニアと日本のつながりについて調べよう」>

か題をもつ	集める	まとめる	伝える
<p>おもしろいことや「なぜ?」と思うことを見つけよう。</p> <p>見聞を広げて</p> <p>本などを集めて</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p> <p>本や資料を整理しよう。</p> <p>本や資料を整理しよう。</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p>	<p>おもしろいことや「なぜ?」と思うことを見つけよう。</p> <p>見聞を広げて</p> <p>本などを集めて</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p> <p>本や資料を整理しよう。</p> <p>本や資料を整理しよう。</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p>	<p>おもしろいことや「なぜ?」と思うことを見つけよう。</p> <p>見聞を広げて</p> <p>本などを集めて</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p> <p>本や資料を整理しよう。</p> <p>本や資料を整理しよう。</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p>	<p>おもしろいことや「なぜ?」と思うことを見つけよう。</p> <p>見聞を広げて</p> <p>本などを集めて</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p> <p>本や資料を整理しよう。</p> <p>本や資料を整理しよう。</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p> <p>おもしろいものや本を借りて</p>

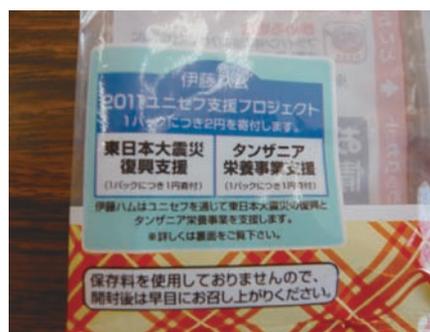
情報活用の実践力の支援カード
京都市総合教育センター
研究課 参照

11限目では、「つかむ」までの学習で、自分が特に興味のあるものについて「タンザニアと日本のつながり」を探す計画を立てた。同じテーマを選んだ者同士でグループを作り、どのように情報を集めるか、どのように情報をまとめるか、どのように情報を伝えるか、共に学習を進めていく計画を立てた。子どもたちは、食べ物、スポーツ、動物、植物（自然）、カンガ、ティンガティンガ、なぜ学校に行けない子どもたちがいるのか、という7つのグループを作った。

12、13限目では、前時で決めた方法で、自分の選んだテーマの情報を集めた。ただそのテーマについて調べるのではなく、そのテーマの中で、「タンザニアと日本のつながり」を探すことも忘れず行うことを伝えた。多くの児童のほしい情報は、図書室の本や私の資料だけでは足りなかったこともあり、インターネットを活用することで、多くの情報を得られた。子どもたちは自分の興味のあることについて詳しく調べられるので、意欲的に学習できた。

14、15限目では、自分の選んだテーマについて集めた情報を、画用紙やパソコンのプレゼンテーションソフトを使ってまとめた。次時に、他のグループの児童へまとめた情報を伝えることも計画していたので、「こうしたら興味をもってくれるんじゃないかな。」とクイズを作ったり、プレゼンソフトを使ったりして、他のグループの児童も楽しんで学べるような工夫をしていた。

16、17限目では、自分の選んだテーマについてまとめた情報を、他のグループの人に伝えた。「そうだったんだ!」「全然知らなかった。」など、他のグループの調べた発表を聞き、「タンザニアと日本のつながり」が様々なところにあることに気付いた。特に、スポーツグループの「日本の柔道家でタンザニアで柔道を教えている人がいる」という情報や、カンガグループの「日本でカンガを愛犬の服として使っている人がいる」という情報は、子どもたちの関心が高かった。



子どもたちが持ってきた「タンザニアと日本のつながり」

<第4次 生かす（10時間）「タンザニアと日本のつながりについて知らせよう」>

18限目では、自分たちが学んだ「タンザニアと日本のつながり」が様々なところにあることを、自分たちのクラス以外に発信する計画を立てた。どんな方法がよいか話し合ったところ、楽しみながら学べるものがよいという意見があり、楽しく遊ぶことで、「タンザニア

と日本のつながり」が様々なところにあることを学ぶことができる「すごろく」を作ることに決まった。

19、20、21、22限目では、楽しく遊ぶことで、「タンザニアと日本のつながり」が様々なところにあることを学ぶことができる「すごろく」を作る。12月現在、1枚の模造紙を7等分して、各グループごとの「タンザニアと日本のつながり」が分かるこまを作ることができ、各グループごとに作り始めている。どんなすごろくになるのか、私自身子どもたちと共に楽しみながら学習している。

23、24限目では、楽しく遊ぶことで、「タンザニアと日本のつながり」が様々なところにあることを学ぶことができる「すごろく」になっているか、初めてタンザニアに出会う3年生に遊んでもらい、感想を聞く予定である。初めてタンザニアに出会う3年生からは、自分たちと同じ意見や違う意見を聞くことができると思う。

25、26、27限目では、単元全体の学習を振り返り、これからの生活の中で、自分たちができることを話し合う。12月現在までの子どもたちの発言を聞く限りでは、人とのつながりを大切にする、あいさつを気持ちよくする、次の人のことを考えスリッパを整頓する、ご飯を残さない、水道水を大切に使う等が出てくるように思う。毎日の生活の中で、身近なことで、続けられることが話し合いの中で出てくるとよいと考える。

実践授業を通しての所感・反省と今後の展望

今回の学習を通して、「だれもがかかわり合えるように」したいと思う力を、子どもたちは付けることができたと思う。自分とは違う背景をもつタンザニアの人の文化を知り、理解しようと自分たちで課題を設定し、追究することができたからである。

また、休み時間に、「先生、タンザニアと日本のつながり見つけた！」と言って、ウイナーの「1パックにつき1円寄付 タンザニア栄養事業支援」と書かれたパッケージや、インスタントのキリマンジャロコーヒーのパッケージを持ってきて見せてくれる児童もいた。子どもたちの中で、タンザニアが気になる存在になっていることを感じた。今回の教師海外研修で、私にとってタンザニアは気になる存在になった。子どもたちにとってもそうなったことがうれしい。気になる存在になれば、自分から学びたい、知りたいと考えることにつながると思う。

さらに、子どもたちの壁新聞を渡させてもらった、ナチングウェア中等学校の青年海外協力隊の方のブログを見たり、壁新聞を見るナチングウェア中等学校の生徒の反応をまとめたムービーを見たりして、タンザニアとのつながりは続いている。そして、すごろくができたなら、またオマリさんといっしょに遊べたらとも思っている。今後もタンザニアとの交流を続けていき、子どもたちと共に、「だれもがかかわり合えるように」自分たちができることについて考えていきたいと思う。